

令和3年度 開智国際大学入学式 学長式辞（抜粋）

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

皆さんのご入学を、私たち教職員・在学生ともにお待ちしておりました。

春爛漫の今日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和3年度の入学式を執り行うことができますこと、大変嬉しく光栄に存じます。

保護者の皆様、ご息女、ご子息のご入学、真におめでとうございます。お喜びも一人のことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、教育学部と国際教養学部の第5期生として、大きな希望を胸に、決意も新たに大学の門をくぐられたことでしょう。

開智国際大学の大学名にふさわしく、ここに、中国、モンゴル、ウズベキスタン、ベトナムの4ヶ国からの留学生を迎えています。海外の大学からの交換留学生を含めると、今年度は、18ヶ国からの学生たちがこのキャンパスに集います。本学は、国籍、言語、文化、性別や社会的経験など、多様なバックグラウンドを持つ学生が学び合う国際色豊かな大学です。留学生の皆さんは、日本語を覚え、日本の歴史や文化を理解し、日本の地域社会に生活者として馴染むことにより、また、日本人学生の皆さんは、留学生と席を共にして学び合うことにより、さまざまな国の文化や生活への理解を深め、援け合う心を培っていただきたいと思います。

本日は、皆さんの新たな目標に向かう歩みが始まる、出発の日です。高校時代とは全く違った学びの日々が始まります。高校では、ほとんどの授業を決められた時間割どおりに受けなければならなかったと思います。大学では、必修科目がいくつかはありますが、多くは自分で選択し、考えながら「学びの枠」を作っていきます。授業をデザインするのは皆さんご自身なのです。

大学では、なぜこのような方法で「学びの枠」を自分で決めるのでしょうか。それは、「考える」大人になるために、「自立できる」大人になるために、個人の学びの自由を大切にしているからです。変化が激しく多様な価値観がぶつかり合う21世紀の社会では、過去の経験や事例が、以前ほど役に立たなくなっています。現状を分析し、目的や課題を明らかにし、自ら考え行動する力が最も必要とされる能力です。何事も受けて立つ強靱な精神力、状況を見極める判断力、自分の意見を大切にしながらも環境に適應する柔軟な対応力、そして何事にも果敢に立ち向かう挑戦力が求められるのです。これこそは教育学部、国際教養学部に共通する本学の学びの礎であり、皆さんを育む力となり、オールラウンドな「人間力」の育成につながります。

「自ら考え行動する」ことは荷が重いなあ、できるだろうか、と不安に思われるかもしれませんね。そんな時に思い出してもらいたい「魔法の言葉」があります。作家の新田次郎と藤原てい夫妻の次男である藤原正彦さんは、大学で教鞭をとる傍らエッセイストとして数々の著書を出版されています。2005年に発売された『国家の品格』はベストセラーとなりました。「国語」こそ教育の柱に置くべきという揺るぎない持論を展開され、「一に国語、二に国語、三四がなく五に算数、あとは十以下」など、ユーモア交じりの藤原さんのエッセイは、読みながら「クスッ」と笑顔になる、私にとって心の妙薬です。

本日は、皆さんに『日本人の矜持』という書物の中の一編をご紹介します。本書は、さま

さまざまな分野で活躍する9人の著名人との対話を1冊にしたものです。その中に、映画監督・タレントとして、その天才的な才能をフルに発揮されているビートたけしさんも登場しています。たけしさんは数学が得意で、数学者の藤原さんと、数学について、互角に語り合っています。

「数学者に向いているタイプってありますか」というたけしさんの質問に、「しつこいことと楽観的なことです。素晴らしい研究ほど成果が出るまで、どんな天才であっても挫折に次ぐ挫折の連続なんです。だから楽観的に思わないとやっていけない。」と藤原さんが答えます。藤原さんは、親交のあったスタンフォード大学教授で、数学分野のノーベル賞といわれるフィールズ賞を受賞した、今は亡き天才数学者のPaul Cohen博士について語ります。

「彼は、どんな問題を見せられても“Oh, it's so easy”と言うんです。難しい問題をパッと出されると、やっぱり萎縮してしまいます。だから、まず“Oh, it's so easy”で自分を勇気づけるんです。天才でもそれが必要なんです」と藤原さんが語ると、「数学に限らず、人生すべてそうかもしれないね」と、たけしさんが納得します。

今までに経験したことがないことに向き合う時、自分の実力以上のものに挑戦しようとする時、こんなことを言うとバカにされないかなあ？ と周りの評価を気にする時、「頑張らなければ…」と、私たちは肩に力を入れて萎縮しがちです。「ああ、これは手に負えない」と思った瞬間、脳は萎縮して、持っている能力の半分も発揮できないでしょう。100%の力を発揮するために、“Oh, it's so easy”は特効薬です。これは人生すべてに有効です。

皆さんは、これから始まる大学生活で、さまざまな新しい場面に遭遇されるでしょう。本学では、講義型授業は少なく、探究型授業が中心です。自分の考えや意見を出し合いながら、対話を通して学び合います。「これについて、君の意見は？」と発言を求められた時、もじもじ沈黙を通すのではなく、まず“Oh, it's so easy”と言ってみましょう。肩の力が抜けて、笑顔になり、自分の考えを自分の言葉で、話せるようになるはずです。困ったときは、“Oh, it's so easy”です。“Oh, it's so easy”は、皆さんに「笑顔と挑戦意欲」を届けてくれる「魔法の言葉」です。

本学では、幅広い分野に科目を設け、皆さんのさまざまな興味に応えられる学びの機会を提供しています。この豊かな土壌を作るために、本学が創立以来大切に、誇りにしているのは少人数教育です。先生と学生の距離が近い本学では、対話を大切に、キャンパスでも挨拶を交わす声がよく聞こえてきます。教員だけでなく、職員の皆さんとの距離の近さも本学の誇りとするところです。一人ひとりの個性を大切にする本学の教育は、多様性を認め合う環境の中で育まれます。

大学は、皆さんが自分で考え、自立するための場なのです。大学が何かをしてくれるだろう…と受身では、何も得ることができません。夢の実現に向けてまずは挑戦してください。私たち教職員は喜んでお手伝いいたします。小さな大学です。いつでも私たちに声をかけてください。

幅広い教養を身につけ、奥の深い研究をし、課外活動にもチャレンジしてください。生涯にわたって信頼できる仲間も増やしてください。4年間の大学生活が、さまざまな対話と気づきを得る場として有意義で実り多いものとなりますよう祈念して、式辞といたします。

ご入学、真におめでとうございます。

令和3年4月2日
学長 北垣 日出子
代読 副学長 柴原宜幸